行動計量学会会報

日本行動計量学会事務局
〒106 東京都港区南麻布4−6−7
統計数理研究所　村上研究室

見えるもの，見えないもの，量れること，量れないこと

飽戸　弘

つい先ごろ,あるアメリカの学会誌に「国民性の国際比較」に関する共著論文を投稿した．レフェリーからいろいろ貴重なコメントがきて，書き直しをすることになったが，その中の一人がきわめてネガティブで，元来国民性などというものは，量れるものではないというような，決定的反発を示しており，これでは他へ投稿したほうが早いだろうということになり，書き直しは止めてしまった．

心理学，社会学で，50年前に議論されていたことが，この分野ではいままだ議論されているのかと，問題の深さを思ったものだ．1930年代には，直接目に見えない態度と言うようなものが，量れるものか量れないものかと，真剣に検討し，議論されていた．態度測定法などがリッカート，サーストン，ガットマンらにより開発され，態度研究は長足の進歩を遂げた．サーストンの映画の研究など，その時代の古典であり，態度が量れる立場での急先鋒として，映画を見た前と後とで態度が変わることを実証して見せた名著といえよう．その後イメージが量れるか，イデオロギーが量れるか，そして価値観や国民性までが量れるかと，問題は広がっていった．

われわれが研究者の道を歩み出した1960年代にはこうした議論も一段落して，態度やイメージといったものがまったく量れないとするものは，心理学，社会学にはさすがにほとんどいなかった．しかし，量れたものについての評価には微妙な違いがあったように思う．一方は「量れたものがあるものである＝量れないものは無いものである」という楽観論の立場，もう一方は「量れたものにも限界がある」という懐疑派の立場，とでもいうことが出来ようか．

確かに実証研究では，客観的に測定出来たものだけを使って物事を考え，検証していく．したがって実際には測定出来ないもの，ごく少数派や，誤差範囲内の意見，事実は，無視される．その意味では量られたものがあるもので，量れなかったものはないものである，ということになる．しかしこうした態度が行き過ぎると，量れないけど重要なものへの配慮，少数派や，声の小さいものを切り捨ててしまう傲慢な態度が研究にも現われる．全宇宙の中で，すべての自然現象，すべての社会現象のなかで，見えるもの，聞こえるもの，そして測定出来るものなどというのは，ほんの一部であることへの謙虚な姿勢が失われていく．これはやはり危険なことだ．

雑誌にアクセプトされるために書き直すのではなく，こうした古典的反測定論者のレフェリーにも納得してもらえるような実証的議論を提起する努力をもう少し続けてみるべきであったようにも思う．このレフェリーが何を考え，われわれの反論にどんな対応をするか，ためしにレフェリーとやりとりをしてみたかった．もちろん全くのすれ違いで，議論の余地のない可能性も大きいが．

あまりにオプティミスティックな調査や実験を見ていると，われわれも初心に返っ

（次ページに続く）

（前ページから続く）
て，こうした基本的議論をもう一度やり直すことも必要かもしれない，という気がしてくる今日このごろだ．

（あくと　ひろし，日本行動計量学会理事，東洋英和女学院大学）

第24回大会のお知らせ

日本行動計量学会の第24回大会は，既報のとおり，本年9月6日(金)から9月9日(月)までの4日間にわたり，千葉の幕張メッセで開催されます．今回の大会は，日本統計学会との同時開催という形で行われます．チュートリアルセミナーをはじめ，特別講演，シンポジウム，特別セッション，一般研究発表のプログラム作成が進んでいます．

行動計量学会への参加者は同時開催の統計学会のセッションにも無料で参加できることになっています（ただし抄録集は別途購入）．会員の皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます．

第24回大会に関するお問い合わせは下記の通りです．

照会先：〒263 千葉市稲毛区弥生町 1-33
千葉大学文学部　宮埜研究室
日本行動計量学会第24回大会事務局
TEL : 043-290-2276
FAX : 043-290-2278

運営委員会よりお知らせ

行動計量シンポジウム等の企画募集

運営委員長　田栗正章

運営委員会は，行動計量シンポジウム及び講習会の企画，実施を担当しております．運営委員会内でも各種企画を検討中ではありますが，立案等の面で自ずと限界があります．そこで会員の皆様から，シンポジウムや講習会の企画についてのアイデアを募集致します．運営委員会側でも検討の上，積極的にサポートして参りたいと考えております．従来ですと開催地が東京近郊に偏りがちですが，その他の地域での開催も応援したいと思います．

提案者自らがオーガナイズする形でも，また「このようなシンポジウム，講習会を開催してもらえないか」といったアイデアでも構いません．積極的に御提案下さい．ご連絡は運営委員長またはお近くの運営委員までお願い致します．1996年度運営委員については，1994年7月版会員名簿をご覧下さい．

千葉大学理学部数学・情報数理学科
田栗正章
e-mail: taguri@math.s.chiba-u.ac.jp
TEL　: 043-290-2725
FAX　: 043-290-2733

会員からの声

学会活性化に向けての提言

木下冨雄

本学会の特徴というか，最大の資産の一つは，行動計量のメーカーとユーザーがほどよく混じっているところにあると思う．だが現実には，メーカーはユーザーがどのようなニーズを持っているのかよく把握していないし，ユーザーはメーカーがくれた道具の正しい使い方が呑込めないまま，両者はスレ違い状態にあるといえよう．これは不幸なことである．なぜなら，科学の歴史を少しでも繙けばわかるように，現象屋と道具屋の密接な協力が，その学問の進歩を促してきたことは明らかだからである．

そこで提言になるが，学会の仕事として，メーカーとユーザーを忌憚なく議論させたり協力させたりする，恒常的な場を設けるのはどうだろうか．俗な言葉でいえば，「取

り持ち」を学会レベルで行うのである．

このことは，かって「行動計量学」誌上で述べたことがあるが，もう現実化するべき時期にきているのではなかろうか．具体的に述べると，

(1) 学会員（ユーザー）に対して，現象の解析法で困っていることがあれば，学会として質問を受け付け，対応するという公示をする．質問は具体的なものでもよいし，注文であってもよい．

(2) 学会の中に，質問に回答するチーム（メーカー）を用意する．メンバーの数とか専門分野は別途考慮する．

(3) 質問に対して個人的に回答するとともに，そのQ&Aを「行動計量学」誌上に掲載する．

(4) 回答に対する反論や，他の処理法の提言は，積極的に歓迎する．

(5) Q&Aがかなり貯ったところで，出版を企画する．回答者に印税の若干を回し（半分程度？），残りは学会の基金に組み入れる．

近　況

北海学園大学大学院工学研究科博士課程2年（株式会社ジャパンテクニカルソフトウェア研究部）　高柳　浩

昨年，母校である北海学園大学に博士課程が設立し，第1期生として入学致しました．これにより，社会人十学生という二足のわらじを履く事になりました．

大学での主な研究テーマは，修士課程から続けている「幾何学的錯視図形を考慮した視覚モデルの構築」です．

一方，仕事としては一昨年は「CGを用いた肌表現手法の開発」，昨年は，「画像データ中から物体抽出手法の開発」，「野菜の形状判別手法の開発」．今年の前半は「遺伝的アルゴリズム (GA) を用いた製造計画システムの開発」，後半は「免疫アルゴリズムの基礎研究」と，まるで視覚モデルとは異なるものを行って来ています．

このように，様々な仕事を行っていて気づく事は，新しい技術をどのように実際のシステムへ導入すべきかを見極める目を養うことが必要であるということです．ついつい，新しい技術がすべて良いという錯覚に陥り，結局よくない結果を招くことが少なくありません．研究者としての視点とともに開発者としての視点を持つことが今後よりいっそう要求されていくように思います．私自身，そういった点でも大学と会社を両立してしていければと思っています．

博士／修士論文紹介

平成7年度末に数多くの新博士／修士が誕生しました．ここでは，会員から寄せられた博士／修士論文を紹介します．まだ情報をお持ちの方は会報担当の岩崎（連絡先は会報末）までお知らせください．

博士論文概要

千葉大学　博士（理学）

姜　青山

題目：On structural characteristics for non-additive set functions

主査：安田正實

概要：ファジィ測度とは，従来の測度論で仮定されているσ-加法性をもっとゆるやかな下半連続性・上半連続性でおきかえた集合関数である．当該論文は，やや一般化されたファジィ測度を中心に，それを含むより広い非加法的集合関数族を考察の対象とした．この論文で展開されている主題は二つである．第一は加法性に代わる様々な特徴的性質の間の相互関係である．この分野ではZ. Wang & G. J. Klir (1984-1995) による多くの論文がある．彼らの研究の延長上にあって，多くの新しい結果が得られた．第二の主題は古典的σ-加法的測度に関してなりたつ結果が非加法的測度のもとでなり

たつか，またどのような条件を加えることによってなりたつか，を論じることにある．

千葉大学　博士（理学）

汪　金芳

題目：The Jackknife and bootstrap - Higher order asymptotics and numerical examinations

主査：田栗 正章

概要：本論文は，ジャックナイフ法とブートストラップ法について，主として漸近展開の観点から考察したものである．第1～5章で，ジャックナイフ (t) 統計量に関するエッジワース型展開を，多変量の場合について与えている．また信頼区間および被覆確率についての高次の議論も行っている．第6，7章では，理論的結果を変動係数と相関係数統計量の場合に適用し，高次の漸近展開に基づく方法が極めて精度の良いことを数値的に示している．第8，9章では，仮説検定の問題に対するブートストラップ法の適用と，ブートストラップ標本数に関する考察を行っている．混合法という新しい方法の提案や，標本数によらない精密な不偏推定量の構成等に関する結果を得ている．

東京工業大学　博士（工学）

植野真臣

題目：ネットワーク型テスト理論とその応用

主査：繁桝算男

概要：本論文では，統計的意思決定理論の枠組より従来の局所独立性を仮定した項目応答理論を発展させた新しいテスト理論「ネットワーク型テスト理論」を提案し，実データに適用することによってその有効性を示す．第1章においては，従来型テスト理論の一つである項目応答理論 (Item Response Theory, 略してIRT) と近年の発達についてレビューし，本論の立場を位置付ける．第2章においては「ネットワーク型テスト理論」の枠組を提案し，実データに適用することによってその有効性を示す．第3章においては，ネットワーク型テスト理論を用いた適応型テストシステムを開発している．第4章においては，ネットワーク型テスト理論におけるネットワーク構造の構築手法を提案する．第5章においては，通常の局所独立型IRTモデルをネットワーク型に拡張した「ネットワーク型IRTモデル」を提案する．第6章では，学習者の解答プロセスそのものを学習者モデルとして表現し，ネットワーク型テスト理論の枠組にあてはめた「解答プロセスモデルを組み込んだネットワーク型テスト理論」を提案する．第7章では，本論文のまとめとその問題点，さらに将来の展望について整理した．

東京工業大学　博士（学術）

吉村　宰

題目：統計モデルにおける認知過程へのアプローチ―読解中の認知過程の評価―

主査：繁桝算男

概要：本研究では，いくつかの下位過程からなる複合的な認知プロセス内における各下位過程の機能やそれらの相互関係を検討するための方法として，統計モデル化アプローチを提案した．統計モデル化アプローチとは，認知プロセス内の下位過程の機能を反映する母数を組み込んだ統計モデルを心理学的認知モデルの基づいて構築し，母数の推定値によって認知プロセス内の下位過程を評価するものである．この方法を逐語読解課題における反応時間に適用することによって，従来の実験的アプローチでは困難であった，読解中の各下位過程の機能やそれらの相互関係，及び文章理解との関係を評価・検討することができた．

東京工業大学　博士（学術）

孫　錫寧

題目：構造変化を伴う，経済データの多変量解析
主査：繁桝算男

概要：本論文は，構造変化を伴う経済データの変動の中に潜む統計的規則性がやや複雑な形になると想定されるとき，その規則性を多変量モデルによって表現し，それによって経済変動の時間的変動構造を説明するとともに，将来の変化の予測を行なうことを目的としている．具体的には，構造変化を伴う経済データ(中国の時系列実データ)を，ベイズ統計学的アプローチを含めた多変量解析アプローチによって解析しようとするものである．
具体的な内容では，逐次連立方程式モデル，新しい部門分類法による産業連関表モデル，誤差項の自己回帰係数を時間に連れて変化するスイッチング回帰モデル，混合予測分布モデルなどの提案・改良した多変量解析方法によって構造変化を伴う経済データを解析している．

岡山理科大学　博士（理学）

弓場　弘
題目：対称型直交計画の研究
主査：山本英二

概要：本研究は対称型直交計画に関するものである．一部実施2^m-型要因計画に強さ2，指標λの2シンボル直交配列を用いた処理数4λの直交計画を提案している．最大要因数4λ-1をもつ飽和型直交配列の同型類の数の決定にアダマール行列との関連に着目して成功を収めている．上の飽和型直交配列からm列を選び構成する2^m-型直交計画の類別，及び同型類の数の決定を行う一般的アルゴリズムの提案を行っている．3水準の要因計画における要因効果を，完全実施の場合にBLUEに等分散性を保証する形でモデルを導入して，特性ベクトルと情報行列の関係を調べ，要因効果の推定方程式の構造を明らかにしてる．主効果に対する2因子交互作用の平均交絡率及びそれらの和に基づく計画の評価基準を導入し実用上の計画の選択に指針を与えている．

広島大学　博士（理学）

段　暁平
題目：Robustness and constructions of some balanced block designs
主査：藤越康祝

概要：実験計画におけるブロック計画において，いくつかの観測値に欠測が生じたときその残差デザインの効率（C-行列の非零固有値の逆数の和）が元のデザインのものと比べて，ほとんど減少しなければそのブロック計画は頑健であるという．本論文では，分散釣合い型ブロック計画と付加釣合い型不完備ブロック計画について，任意の2つの観測値が欠測する場合及び任意の2つのブロックのすべての観測値が欠測する場合は頑健であることを示している．また，ブロックに含まれる観測値がすべて欠測する場合，その残差デザインを特徴付けることにより，部分効率釣合い型ブロック計画のいくつかの構成法を提案している．これらの結果は，Hiroshima Math. J.に掲載予定である．

修士論文題目

東北大学　修士（文学）

近藤博文：協力的状況における勢力関係の分析―多選択肢協力ゲームによるパワー指数の考察―（主査：佐藤嘉倫）

筑波大学　修士（理学）

高木義治：平均ベクトルに対するPositive-part James-Stein 推定量の改良（主査：杉浦成昭）
庄野　宏：Estimation of a location parameter of non-regular distributions（主査：赤平昌文）

筑波大学　修士（経営システム科学）

田上和光：情報共有活動への参加要因に関する研究（主査：吉澤　正）
阿部昭博：QFD法を用いたプロトタイピングのプロセスマネジメントに関する研究（主査：吉澤　正）
雫　文男：労働基準監督行政の政策決定に関する方法論と事例研究（主査：吉澤　正）
木野泰伸：大規模ソフトウェア開発におけるコーディング・単体テスト工程の管理に関する研究（主査：吉澤　正）
五家建夫：大型・小型衛星の評価モデルに関する研究（主査：吉澤　正）

筑波大学　修士（経営学）

高科博之：電子部品産業における技術ライフサイクルから見た海外生産活動について（主査：吉澤　正）

千葉大学　修士（理学）

樋渡　修：非可環確率変数とその分布（主査：渚　勝）
呉　黎明：On a nonlinear congruential pseudo random number generator（主査：吉田英信）

千葉大学　修士（教育学）

濱野加代子：最適取り替え問題について（主査：蔵野正美）

東京工業大学　修士（工学）

荒井健典：リカレントニューラルネットワークの学習アルゴリズムの改善（主査：繁桝算男）
廿浦　隆：ネットワーク統計モデルにおけるベイズ解析（主査：繁桝算男）
森　徹：少数サンプリングによるベイジアンネットワークの構造構築アルゴリズム（主査：繁桝算男）

東京工業大学　修士（学術）

駒崎久明：機能の形態追従効果による創造的発明に関する研究（主査：繁桝算男）

東京理科大学　修士（工学）

遠藤　輝：臨床試験における対応のあるデータでの有効率の同等性検証（主査：吉村　功）
大森　崇：動物実験代替法バリデーション研究における統計解析（主査：吉村　功）
高橋史郎：皮膚刺激性試験における使用動物数削減の統計学的視点からの検討（主査：吉村　功）
若菜　明：用量群実験のデータに単調性を想定した毒性評価法の研究（主査：吉村功）

東京理科大学　修士（理学）

遠山卓弥：On the estimation of kurtosis parameter in elliptical distributions（指導教員：富澤貞男）
菊池省二：Normal approximation of a discrete distribution on exact test of uniform association in a 2x3 table（指導教員：富澤貞男）
藤野和人：Measures of departure from logit and global uniform associations in cross-classifications having ordered categories（指導教員：富澤貞男）
水口淳一郎：Decomposition of bivariate symmetric density function（指導教員：富澤貞男）
山本英晴：Power-divergence type measure of departure from symmetry for square contingency tables having nominal categories（指導教員：富澤貞男）

立教大学　修士（社会学）

木村泰之：集団意思決定とコミュニケーション・モード一対面条件とコンピュー

タ・コミュニケーション条件との差異に関する実験社会心理学的検討ー（主査：都築誉史）

岡山理科大学　修士（理学）

金家只典：3値系列における連の同時分布；DNA sequences の規則性検出への応用（主査：山本英二）
丹下裕之：疫学調査における選択バイアスについて（主査：山本英二）

広島大学　修士（理学）

佐藤健一：モデル選択基準の改良と評価（主査：藤越康祝）
原田　睦：凸多面錐の内部を対立仮説とする検定問題について（主査：笹渕祥一）
三浦　孝：順序制約の下での多次元正規分布の平均の均一性に関するいくつかの検定のサイズと検出力についての考察（主査：笹渕祥一）

広島大学　修士（学術）

池田圭子：Fractional factorial designs of resolution IV（主査：来田正秀）
草信佐栄子：ベイズ線形模型に基づくノンパラメトリック推定とその画像データへの応用（主査：西井龍映）
居藤美恵子：日本人の成長の特徴づけ（主査：正法地孝雄）

大分大学　修士（工学）

楳木 浩世：多項反応データの解析 ーー般化推定方程式の適用ー（主査：越智義道）
毛利 武晴：データ添加法による生存時間データの分析（主査：越智義道）
山下 和彦：信号のウエーブレット解析による再構成 問題とその精度（主査：永井武昭）

各種委員会報告

平成7年度第4回理事会議事録（抜粋）

・日時：平成7年11月20日（月）午後6時～8時
・場所：大学入試センター
・出席者：飽戸，池田，岩崎，岩坪，岡太，久保，繁桝，肥田野，柳井，村上

1．第23回大会報告

柳井理事長より大会および，チュートリアル・セミナーの報告があった．

2．第24回大会

柳井理事長より，行動計量学会・統計学会同時開催準備会が発足し，大会運営法についての検討がされていることが報告された．また，繁桝プログラム委員会委員長より，特別セッション，諸委員会及びチュートリアル・セミナーに関する検討状況の報告もあった．

3．学会賞選考委員会委員長の選出

飽戸　弘理事を選出した．

4．各種委員会報告

・岡太和文誌編集委員長および繁桝欧文誌編集委員長より，学会誌の編集状況について報告があった．
・岩崎会報担当理事より会報の発行状況の報告があった．

5．その他

・統計関連学会の懇談会での共通名簿，合同の事務局の設置，共通のニュースレターの発行等の検討状況について報告があった．

平成7年度第5回理事会議事録（抜粋）

・日時：平成8年2月19日（月）午後6時～8時

・場所：大学入試センター

・出席者：池田，岩崎，江川，岡太，久保，繁桝，馬場，村上（隆），柳井，村上（征）

1．第24回大会準備

繁桝理事よりのプログラムについての報告，および柳井理事長よりの経費協力依頼の趣意書に関する説明があった．

2．第25回大会

柳井理事長より，第25回大会は東北大学で開催する予定であること，他の学会との同時開催も検討してほしい旨東北大学に申し入れたとの報告があった．

3．各種委員会報告

・岡太和文誌編集委員長および繁桝欧文誌編集委員長より，学会誌の編集状況についての説明があった．

・柳井理事長より，運営理事会の審議事項について報告があった．

・岩崎理事より広報活動についての説明があった．

・第60回行動計量シンポジウム（1996年1月27日（土）開催の「スポーツの行動計量」の報告（講演4件，参加者30名））

4．その他

・学会員の異動状況，学会の経営状態について事務局より説明があった．

・学術会議への学会登録について江川理事より説明があった．研連の登録順序を統計学研連，行動科学研連の順とすることが了承された．

日本学術会議関係報告

日本学術会議会員（第4部）藤井光昭

1．連合部会・第4部会

平成8年2月16日に開催された．

(1)「脳科学研究の推進について（勧告案）」について討議の場が設けられたが特に意見はなかった．

(2)本年3月25日～28日に開催されるアジア学術会議についての報告．

(3)会長より「我が国の学術研究体制のあるべき姿について」の提案があり，フリートーキングを行なった．ディスプリン型研究分野のレベルアップや領域別の重点投資，巨大科学の重視等に意見が多く出され，学術分野の重要性，スモールサイエンスも重視してほしい等の意見が出された．

(4)日本学術会議が国際対応している国際学術団体やその他の団体等が対応しているものの調査結果の中間報告．

(5)日本学術月報を改訂する（ページ数をふやし市販）．

(6)平成8年度国際会議代表派遣について数学グループは，藤田教授（日本学術会議会員）を派遣する第8回数学教育世界大会が採択された（統研連を含め5件の応募があったが，統研連については来年度のISIを考慮するから今回は遠慮してほしいとのことであった）．

(7)「分子レベルの構造生物学振興への提言」，「計算機科学国際研究所設立構想」についてフリートーキングを行った．

(8)平成10年度共同主催国際会議について提案された9件について，4部としての推薦順位決定の投票を行った．

2．第5常置委員会

平成8年2月15日に開催され

(1)図書館資料の紙質の劣化の問題に対する要望書案の検討や

(2)再版制度に対する本委員会としての取りくみ方の検討を行った．

(3)学術情報ネットワーク小委員会はネットワークを使用して新しい試みをやっておられる方々から説明をうかがっており，知的財産権問題，電子図書館の問題，On Line University の問題を最近うかがった．

3．統計学研究連絡委員会

予算不足により4回以上開催できなくなり，11月以降開催していないが，
(1) 高等学校以前の統計教育に関する意見をまとめて，科学教育研連の出版物用に提出したこと，
(2)平成8年1月26日に日本学術会議講堂で，David Vere-Jones 教授の統計教育に関する講演会を開催した（これに関する記事は日本学術会議月報（名称が変わるかもしれません）に掲載される予定）．

学会カレンダー

○第37回日本心身医学会学術講演会

会　期：6月5日（水），6日（木）
会　場：国立京都国際会館
照会先：京都府立医科大学精神医学教室
Tel:075-251-5612
Fax:075-251-5839

○日本行動分析学会第14回大会

会　期：6月8日(土)，9日(日)
会　場：名古屋国際会議場
照会先：愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所
Tel:0568-88-0811(3505:望月),
Fax:0568-88-0829

○日本認知科学会第13回大会

会　期：6月20日（木）～22日（土）
会　場：国際電気通信基礎技術研究所 (ATR)
照会先：ATR 知能映像通信研究所 認知科学96
〒619-02 京都府相楽郡精華町光台2-2
Fax: 0774-95-1408
E-mail: jcss96-query@mic.atr.co.jp
ULR: http://www.mic.atr.co.jp/jcss96/

○第22回　日本環境学会研究発表会

会　期：7月6日（土），7日（日）
会　場：近畿大学長瀬キャンパス
照会先：日本環境学会近畿支部事務局
Tel/Fax : 0775-94-0572

○1996年度統計数理研究所公開講座

日　時：7月8日（月）～12日（金）
会　場：統計数理研究所
概　論：情報量規準による統計解析入門（25時間）

○福井シンポジウム '96 「複雑性と多様性」

会　期：8月28日（水）～30日（金）
会　場：福井県立大学交流センター
照会先：e-mail:
sympo96@laputa.cis.fpu.ac.jp
URL:
http://www.complexity.fpu.ac.jp/
FAX: 0776-61-6013（山川 修）

○情報処理学会第53回全国大会

会　期：9月4日（水）～6日（金）
会　場：大阪工業大学（枚方市）
照会先：「情報処理」3月号または
http://www.ipsj.or.jp
情報処理学会 事業係
Tel:03-5484-3535

○日本応用心理学会第63回大会

会　期：9月6日（金），7日（土）
会　場：中京大学
照会先：中京大学神作博教授
Tel:052-835-7160,
Fax:052-835-7144

○日本心理学会第60回大会

会　期：9月10日（火）～12日（木）
会　場：立教大学池袋キャンパス
照会先：学会事務センター内日本心理学会第60回大会準備委員会
Tel:03-5814-5800,
Fax:03-5814-5823
e-mail: jpa60@rikkyo.ac.jp
URL:
http://www.rikkyo.ac.jp/psycho/jpa60

会員による著訳書

朝野熙彦 (1996) 入門多変量解析の実際. 講談社, 2,800円.

豊田秀樹 (1996) 非線形多変量解析ーニューラルネットによるアプローチー. 朝倉書店, 3,296円.

寄贈図書

大谷信介：現代都市住民のパーソナル・ネットワークー北米都市理論の日本的解読ー. ミネルヴァ書房.

新村秀一：パソコンによるデータ解析 統計ソフトをつかいこなす. 講談社

上智大学心理学科：上智大学心理年報 第19巻, 1995.

第9回日本計算機統計学会シンポジウム実行委員会：第9回日本計算機統計学会シンポジウム論文集.

N. アバークロンビー, S. ヒル, B. S. ターナー著, 丸山哲央監訳・編集：社会学中辞典. ミネルヴァ書房

碓井編著：コープこうべ 一生活ネットワークの再発見ー. ミネルヴァ書房.

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています. 詳しくは

〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター　C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL：03-5814-5810
FAX：03-5814-5825

までお問い合わせください.

学会誌論文投稿先

和文誌「行動計量学」

〒171 東京都豊島区西池袋 3-34-1
立教大学社会学部
岡太彬訓

欧文誌「Behaviormetrika」

〒153 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学教養学部心理学教室
繁桝算男

編集後記

今号の会報では新博士／修士論文を紹介しました. 新人の誕生は学会（学界）の発展の必要条件です.

会報に情報をたくさんお寄せください. 原稿の送り先は次のとおりです.

会報原稿送付先

〒180 武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1
成蹊大学工学部経営工学科
岩崎　学
TEL : 0422-37-3764
FAX : 0422-37-3871
e-mail : iwasaki@is.seikei.ac.jp

（会報作成担当：岩崎　学・前田忠彦）